

グループ企業全社・全拠点の ファイルサーバーを統合する ネットアップの最新ソリューション



ホンモノは、おいしい。

OHAYO

オハヨー乳業株式会社

ヨーグルト、プリン、飲料、アイス等の乳製品を製造販売。創業以来「おいしさ」にこだわり、どこよりも「おいしさ」を追求。素材の良さを活かす高い技術力と新しいおいしさを生み出す商品開発力で、こだわりのある商品を提供している。

オハヨー乳業のファイルサーバー更新を契機として、日本カバヤ・オハヨーホールディングスグループ全体を集約する統合ファイルサーバーが導入されました。

企業ごと、拠点ごとに置かれたサーバーの管理負担、現地で起こる災害や障害への対応・対策、WANネットワーク回線の通信遅延、大容量データのバックアップで止まるユーザーの作業など、DRやBCPの観点から、また保守管理の観点からも改善が急務であった課題を解決するためにネットアップの最新ソリューションが選ばれました。

オールフラッシュのNetApp AFFストレージをメインにONTAP S3を搭載したNetApp FAS2720を連携したデータ階層化構造、IAサーバにONTAP Selectを搭載した拠点設置用の疑似的FAS、Azureデータセンター上に置かれたCloud Volume ONTAPをバックアップとして活用するクラウドDRなど、最先端の技術やチャレンジフルな取り組みが採用された統合ファイルサーバーシステムは、日本全国に展開する大小さまざまな拠点の課題やニーズに対応し、13社からなるグループのデータ資産保護と停滞のない業務環境を実現しています。

グループ13社 約80拠点 のファイルサーバー を集約

“管理対象となるファイルサーバーは
オハヨー乳業だけでも全国に多数ありました。
それがグループも含めて一元化されたこと。
これに尽きます”

オハヨー乳業株式会社 情報システム課
橋内 達也 氏

グループ全体で資産を安全に管理する DR・BCPに優れた 「統合ファイルサーバー」への移行

オハヨー乳業は岡山県に本社を構える牛乳・乳製品メーカーであり、日本全国に営業拠点・生産拠点を展開しています。また、食品製造・販売、住宅・不動産、ゴルフ場、流通、IT、ペットショップ・動物病院、学校法人など、さまざまな業種を抱える日本カバヤ・オハヨーホールディングスグループの中核企業でもあります。

2022年4月からオハヨー乳業を始めとするグループ企業全体を統合した集約型ファイルサーバーの運用が始まった経緯について、同社情報システム課の橋内氏は次のように振り返ります。

「2021年にオハヨー乳業のファイルサーバーが7年目を迎え、機器を刷新する時期に来ていました。他のグループ企業もほぼ似たような状況で、だったらグループ全体で見直しを図ろうという流れになったのが始まりです。その際に、今まで通り各拠点にオンプレミスを設置する形と集約型のどちらが良いか、という検討がなされました」(橋内氏)



リンク＆リンケージ株式会社
IT 事業部 システム開発部 IT 基盤課
川上 真二 氏



オハヨー乳業株式会社
情報システム課
橋内 達也 氏

また、グループ全体のIT 領域を担当するリンク＆リンケージで統合ファイルサーバー導入における機器選定やプロジェクト管理を担当した川上氏は、このようなタイミングに加え、当時の各拠点における働き方の変化やサーバ管理環境も検討要素であったと説明します。

「新型コロナウイルス感染症の流行で、拠点でも在宅勤務やリモートワークが増えていましたし、無人になることもあったので、そこにサーバーが置きっぱなしという状態はセキュリティやハードの保守管理という面からも大きな懸念がありました。また、全国に拠点があると毎年必ずどこかで災害のリスクが生まれます。過去にグループのカバヤ食品本社も洪水による社屋浸水被害を経験していて、DRやBCPという観点からも不安の大きい環境でしたので、安全に管理を一元化できる統合ファイルサーバーを導入することにしました」(川上氏)

導入する統合ファイルサーバーには、グループ全体

の大量のデータ集約と全国のユーザーの一斉アクセスにも耐えるパフォーマンスが求められます。加えて、バックアップデータ保護の柔軟性や将来的な拡張性、リプレイスへの対応力といった点も期待されました。

さらに今回はグループ企業ごとの利用環境やニーズに応えられる構成も考慮する必要があったといいます。

「CADデータを扱うグループ企業では既に複数拠点を集約したファイルサーバーを運用していましたが、ネットワークのスピードが時間帯によって遅くなることもあり、データ作成中の自動保存の度に作業が止まる、といった問題も起きていました」(川上氏)

このような要件を満たすため、最終的には人の多い拠点や稼働を絶対に止められない工場なども含め、ネットワークの関係で一時的にでもファイルアクセスが途絶えた際の影響が大きい一部の拠点にのみオンプレミスを残しつつ、グループ全体で集約型の統合ファイルサーバーを構築することになりました。

ONTAP S3へのティアリング、CVOによるクラウドDR、ONTAP Selectで構築する疑似的FASなど、ネットアップの最先端技術を集結

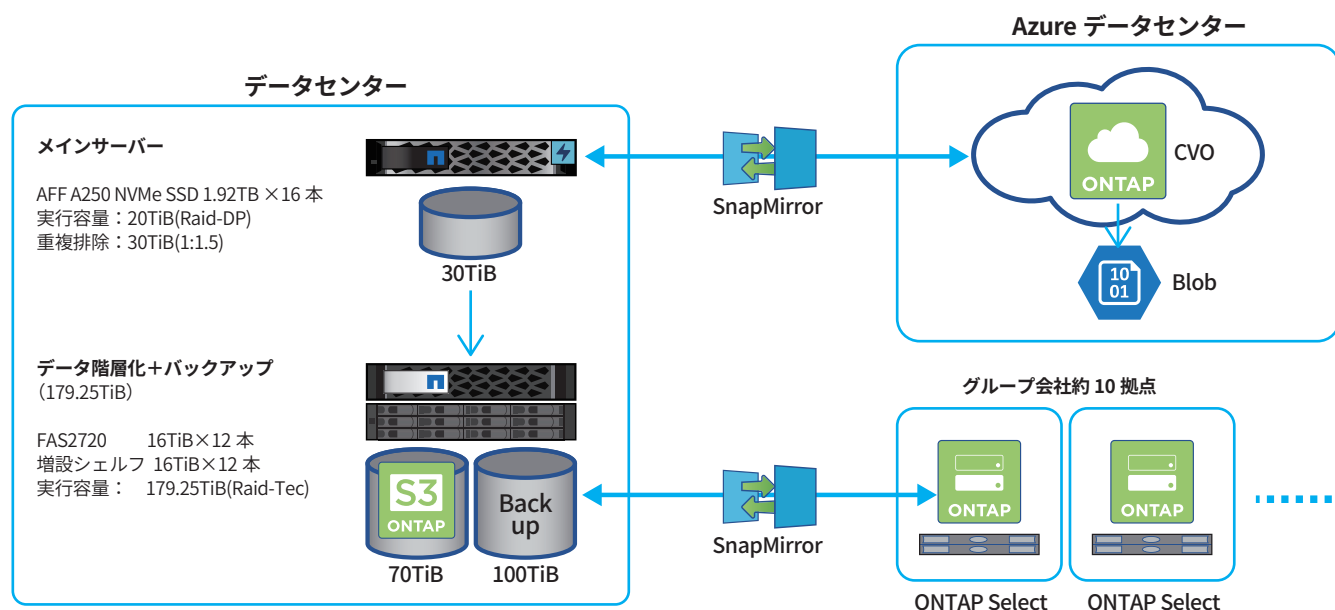
新たに構築された統合ファイルサーバーでは、デー

タセンターにメインとなるNetApp AFF A250ストレージを16台構成で設置。そこにネットアップでも最新のソリューションとなるネイティブS3アプリケーションを備えたONTAP S3搭載のNetApp FAS2720ストレージを連携し、アクセス頻度の低いデータをティアリングする階層化構造を組むことでストレージコスト効率の向上も図られています。

また、オンプレミスを残した一部の拠点では、通信速度が遅いWAN構成のネットワークをフォローするため、一般的なIAサーバーをVMWareで仮想化しNetApp ONTAP Selectを搭載することで、安価でコンパクトに作成できる疑似的なFASストレージを設置し、データセンター内のFAS領域を切り分けたスペースにWANを介したSnapMirrorでバックアップを取れるようにしました。

さらにメインサーバーのDR・BCP対策にはクラウドDRが採用され、Azureデータセンター上のCloud Volumes ONTAP (CVO)へ、こちらもSnapMirrorでデータをミラーリングする構成になっており、刷新されたファイルストレージシステム全体で安全性、堅牢性、コスト最適化、さらには将来の拡張性まで向上させることに成功しています。

統合ファイルサーバー構築に当たり、最終的にネットアップ製品が選ばれた理由としては、今後の移行も



見据えた運用管理性と、自社製品のみで実現できるネイティブな機能性への期待があったといいます。

「今回はWindowsサーバーからの移行だったので手間はかかりましたが、今後は同じネットワーク上で動かすことが簡単になる、という点は保守管理の立場から見ても大きなアドバンテージでした。加えて、ネットアップはソリューションの選択肢も広い。選定の際に他の製品とも比較したのですが、バックアップに同じ製品を買って別のデータセンターと同期させる、という形しかなかった。拠点に置くオンプレミスについても同様です。クラウド上のCVOや拠点のWindowsサーバーをFAS化するONTAP Selectなど、予算を圧迫しない構成を、しかもネイティブでできるというのは強みでしたね」(川上氏)

導入後は大きな移行の初年度ということもあり、週末ごとの出勤やファイルアクセス権限管理方法の変更など作業に追われる期間もありましたが、カットオーバー以降、統合ファイルサーバーシステムは現在まで順調に稼働しているといいます。

「良い意味で、現場からの評価は何も変わりません。オンプレミスが無くなったことに気付かないユーザーもいるほどスムーズな移行が実現できたと考えています。管理面でも、以前はWindowsサーバーで1日一回バックアップを取る、という状態だったので何かあった時に重要なデータを失うリスクがありました。今はSnapMirrorで差分のみを細かく高速で保存できますし、回数も必要に応じて変えられます。設定すれば自動でバックアップしてくれますから手間もかかりません」(川上氏)

「保守の作業工数は間違いなく減少したと実感しています。以前は月に数件、ハードウェアのアラートメールに関する問い合わせがありましたが、リリース以降は一件も発生していません。オハヨー乳業単体はもち

ろん、グループ全体のファイルサーバーを統合したことで管理対象となる台数が激減したことは大きな要因ですし、ネットアップ製品は以前から業務システムでも使っていましたがハードウェア障害は一度も起きたことがありませんでした。そういった機器の品質も管理負荷軽減の理由の一つになっていると思います」(橋内氏)

セキュリティ性のさらなる向上やクラウド活用領域の拡張など今後の展開においてもネットアップのネイティブ機能に期待

分散し個別に管理されていたグループ企業や拠点のファイルサーバーをオンプレミス環境で統合し、DRやBCP、管理負担の軽減といった従来の課題を解決する、という目的は新しい環境でまずは実現できたと評価されています。

その上で、今後取り組んで行きたい領域を語るのは、今回の移行プロジェクトで実機の設定や構築を担当したリンク＆リンケージの野谷氏です。

「ハードウェアやシステム構成という意味では大きく刷新されましたが、現状ではネットワークがボトルネックになっているのは間違いありません。小さい拠点とは今でも細い回線で繋がっています。例えばPCのデータをコピーする程度でも容量が大きければ時間がかかっていて、まだ新しい環境を活かしきれていないと感じています。コストとのバランスを見ながらです



リンク＆リンケージ株式会社
IT事業部 システム開発部 IT基盤課
野谷 怜志 氏

が、そこは改善していきたいですね。また、期待の面では以前はWindowsサーバーに入っている対策ソフト頼りだったエンドポイントのセキュリティですが、ネットアップはそもそもOSが独自のので安全性も高く、ランサムウェア対策なども独自のものを持っているので、今後有効活用できればセキュリティ性は格段に向上するだろうと考えています」(野谷氏)

野谷氏が指摘しているネットワークについては川上氏も将来的なユーザーの利用環境向上に向けた展望を口にします。

「現状はVPNでアクセスしなければいけません、今後インターネット経由で繋げられるようになれば使い勝手はかなり向上すると思います。そういう意味では、今回バックアップとしてクラウドを使っていますが、クラウドのSharePointとファイルサーバーが同期され、クラウドで更新されたものがオンプレに、オンプレで更新されたものがクラウドに、という感じになれば働き方をより柔軟にできるかなと思います」(川上氏)

最後に、今回の統合ファイルサーバー導入から現状、今後への期待までを俯瞰して橋内氏は次のように語りました。

「ネットアップのソリューションを幅広く活用したことで、以前のファイルサーバーと比べて性能も信頼性も飛躍的に向上していると思いますし、ティアリングによりストレージをより有効に使えてるという実感も

あります。将来的にはオンプレミスとクラウドの同期に留まらず、オールクラウドという選択肢もありえるかもしれません。そうなればインターネット接続も必要になりますし、現状はまだ情報収集の段階ですが、ネットアップの豊富なランサムウェア対策の実装も検討していくことになるかと思いますので、引き続きご支援いたきたいと思っています」(橋内氏)



ネットアップ製品

NetApp AFF A250
NetApp FAS2720
ONTAP Select
Cloud Volumes ONTAP for Azure
SnapMirror

Link & Linkage

リンク & リンケージ株式会社

日本カバヤ・オハヨーホールディングスグループのIT領域全般を担当。長年培った業務ノウハウとナレッジ、社員一人ひとりの独自性とIT技術を駆使し、お客様にご満足と信頼を得られるソリューションをご提供している。



ネットアップ合同会社

<https://www.netapp.com/ja/forms/sales-contact/>

ネットアップは、ハイブリッドクラウドのデータに関するオーソリティです。クラウド環境からオンプレミス環境にわたるアプリケーションとデータの管理を簡易化し、デジタル変革を加速する包括的なハイブリッドクラウドデータサービスを提供しています。グローバル企業がデータのポテンシャルを最大限に引き出し、お客様とのコンタクトの強化、イノベーションの促進、業務の最適化を図るよう、パートナー様とともに取り組んでいます。

詳細については、www.netapp.com/jpをご覧ください。



© 2023 NetApp, Inc. All rights reserved. 記載事項は、予告なく変更される場合があります。内容の一部または全部をNetApp, Inc.の許可なく使用・複製することはできません。NetApp、NetAppロゴ、SolidFireは、米国およびその他の国におけるNetApp, Inc.の登録商標です。その他記載のブランド・製品名は、それぞれの会社の商標または登録商標です。CSS-7264-0123